

乳房炎を予防し 乳質を改善するための 技術を積み重ねる

酪農経営において、大きなロスとなるのは乳房炎による牛乳の損失。これを避けるためにさまざまな取り組みが行われているが、今回紹介するのは、平成23年度県の乳質改善大賞で優良賞を受賞した、牛が快適に餌を食べられる環境を整えてきた農場の事例を紹介する。

きめ細やかな牛舎管理

同農場では、ホルスタイン種経産牛37頭（うち搾乳牛30頭）を飼養しているほか、育成牛58頭を共同牧場に預けている。農場の主な作業は夫婦2人で、人工授精は妻が担当。自給飼料作りも手掛けている。産まれた雌牛はすべて後継牛として共同農場で管理。搾乳牛舎は対頭式のタイストールで、牛床にはストローを敷設（写真1）。敷料は毎日交換している。肢蹄の状態が良くない牛は、マット

を敷いたストールで管理するようにしている。搾乳は6時、18時の1日2回、約2時間半かけて行い、乳房が汚れている牛には、搾乳タオルを3枚使って清潔さを保つ。年1回、細菌性乳房炎の全頭検査を行い、農場の状態を把握している。

食い込みを高めるための工夫

また自給粗飼料としてオーチャードグラス、リードカナリーグラスを29haほどの面積で栽培。食い込みを良くするため、今年4月からカッティングロールペーラーを導入し、細

断しているほか、水稲農家からコンバインにより裁断された稲ワラを取り入れている（写真3、4）。飼槽は10年前にすべてのストールの飼槽をステンレス製に切り替えたが、近年劣化が目立ってきたことから今年2月には半数を耐久性が高い御影石製に切り替えた（写真5）。掃除の負担も軽減された。

夏場にむけた備え

この地域でも夏場の影響は深刻で、乳量が1日1頭あたり3kg減ることもあった。そのためこの農場でも、いくつかの暑熱対策に取り組んできた。同農場は朝と夕方に日差しが入り込むため、牛舎内が35℃を超えることもある。この対策として農場の東側と西側に寒冷紗を設置（写真2）。

また換気扇を効率的に稼働して電力コストを下げるためにインバータを導入。換気扇の設置個数を増やした。夏場に十分な給水ができるようウォーターカップも新調した。以前は給水用パイプの太さやウォーターカップの容量が不十分だったため、これらを牛が飲みやすいものに変更した結果、夏場の生産性の低下を抑えることにつながったという。

「手を抜こうと思えばいくらでも手を抜ける。だからこそ一つひとつの作業を丁寧に行うことが大事です」。この意識が功を奏して、牛乳の品質を評価する乳汁中の体細胞数を平成23年には9万5000個/mlと好成绩を達成した。より高い乳質を求めながら、乳量の増加、さらには規模拡大を目標に今後も進んでいく。

快適な牛舎環境を実現するきめ細やかな管理体制



写真2：牛舎内を冷却するための換気扇の増設と寒冷紗の設置



写真1：対頭式のタイストール

Point!

寒冷紗と換気扇の増設を組み合わせ、牛舎内を涼しくしている

Point!

牛床にはストローを使用。肢蹄の状態に応じてマット素材も併用。敷料は毎日交換

飼料給与と給水方法を改善



写真3：自給粗飼料を細断するために導入したカッティングロールペーラー

Point!

牛の食い込みを高めるために給餌前に細断する工夫



写真4：食べやすく細断された飼料。



写真5：新設した御影石の飼槽

Point!

従来のステンレス製に比べて耐久性も高まり、掃除の負担が軽減

表：同牧場のここ3年間の年間成績の推移

	平成22年(3月)	平成23年(1月)	平成24年(3月)
補正乳量(kg/頭)	9,205	9,658	9,465
乳脂肪(%)	3.79	3.85	3.98
乳蛋白(%)	3.29	3.30	3.36
無脂乳固形分(%)	8.73	8.73	8.76

Point!

乳質の改善に重点的に取り組み、平成23年度の体細胞数は95,000/mlを達成

※平成23年は震災の影響により、3月に牛群検定を実施出来なかった

DATA 事業規模
所在地：信州・東北地方
飼養頭数：ホルスタイン種経産牛37頭
従業員数：3名